

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 9 月検出分;検体採取 平成 30 年 7~9 月)

平成 30 年 10 月 11 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 11 件（検体採取 8,9 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、A 群ロタウイルスが 1 件、ノロウイルス GII が 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180199	8 月下旬	検出(GII)					
180200	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
180201	8 月中旬	—	—	—	—	—	—
180202	8 月上旬	—	—	—	—	—	—
180204	8 月下旬	—	—	検出			
180205	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
180206	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
180207	9 月上旬	—	—	—	—	—	—
180208	9 月上旬	—	—	—	—	—	—
180212	8 月上旬	—	—	—	—	—	—
180213	8 月下旬	—	—	—	—	—	—
検出計		1 件 (GII:1)	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

2 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体2件（検体採取8月中旬、下旬）について検査を実施したところ、1件（検体番号180197）からアデノウイルス54型、残り1件（検体番号180193）からアデノウイルス56型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10月9日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス54型は2015年以降最も多い報告数となっています。また、アデノウイルス56型については5位前後の報告数となっています。（図1）

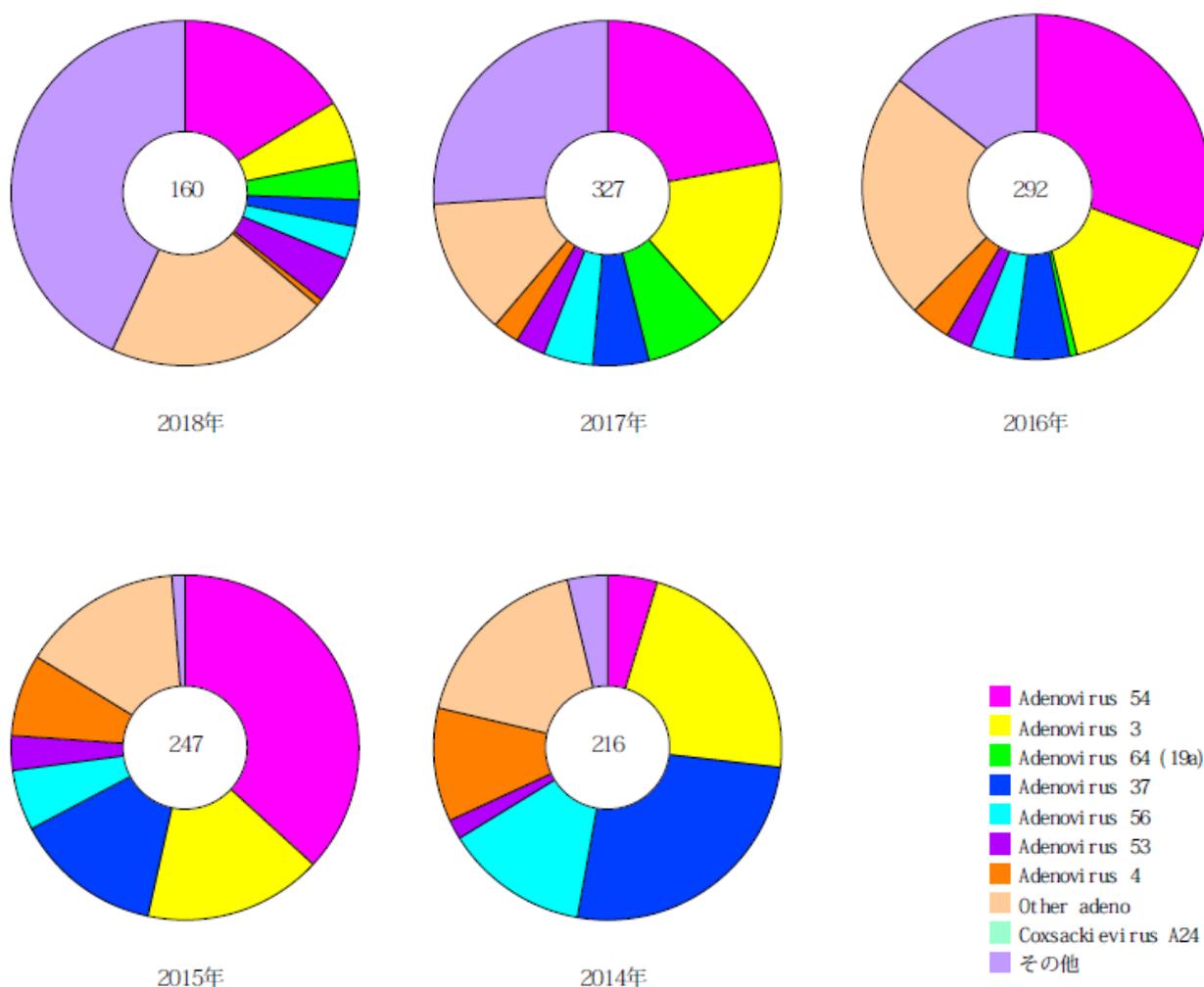


図1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年10月9日までに報告された数）

3 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体2件（検体採取8月上旬、9月上旬）について検査を実施したところ、1件（検体番号180211）からアデノウイルス1型、残り1件（検体番号180209）からアデノウイルスC種が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10月9日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス1型は2014年以降3位前後の報告数となっています。（図2）

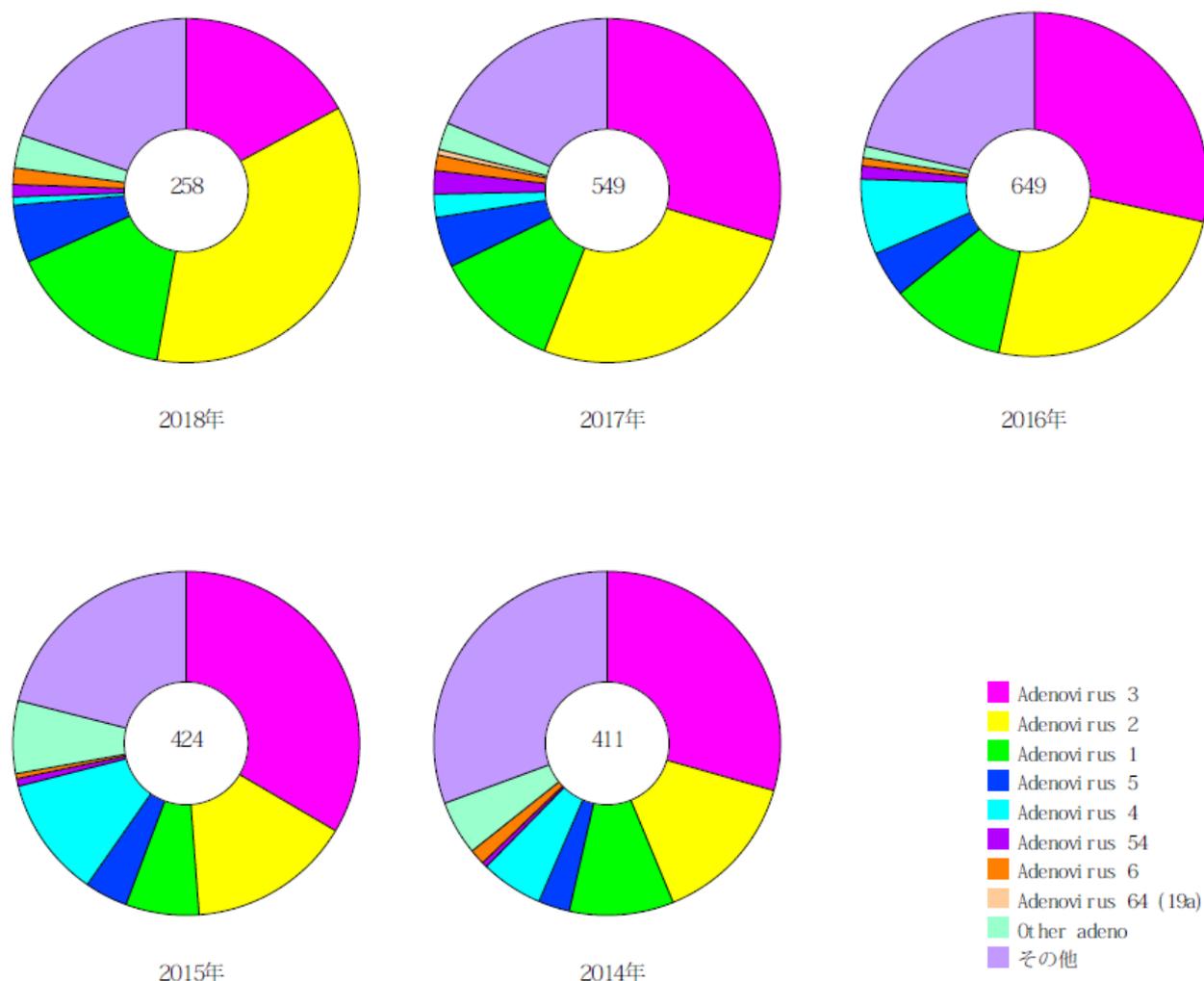


図2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年10月9日までに報告された数）

4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体3件（検体採取7月下旬、8月上旬）について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス及びムンプスウイルスの検査を実施しました。その結果、1件（検体番号180194）からヘルペスウイルス3型（水痘・帯状疱疹ウイルス）、1件（検体番号180196）からエンテロウイルス（型別不能）が検出されました。（その他検出されず）

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10月9日作成）によると、全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、ヘルペスウイルス3型（水痘・帯状疱疹ウイルス）はあまり報告されていません。（表2）

表2 無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2017～2018年）

（本年は10月9日までに報告された数）

2018			2017		
1 Echovirus 11	16	7.7%	1 Echovirus 6	55	10.9%
2 Coxsackievirus B4	14	6.7%	2 Coxsackievirus B2	38	7.5%
3 Echovirus 18	11	5.3%	3 Enterovirus 71	30	5.9%
4 Enterovirus 71	7	3.3%	4 Echovirus 9	20	4.0%
5 Coxsackievirus A9	6	2.9%	5 Coxsackievirus B4	18	3.6%
6 Coxsackievirus B2	5	2.4%	6 Echovirus 3	17	3.4%
7 Echovirus 7	5	2.4%	7 Coxsackievirus A6	11	2.2%
8 Coxsackievirus A2	2	1.0%	8 Coxsackievirus A9	9	1.8%
9 Echovirus 4	2	1.0%	9 Echovirus 7	8	1.6%
10 Other enterovirus	18	8.6%	10 Other enterovirus	28	5.5%
11 Mumps virus	11	5.3%	11 Mumps virus	45	8.9%
12 Other virus	112	53.6%	12 Other virus	227	44.9%
Total	209	100.0%	Total	506	100.0%

5 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体1件（検体採取8月中旬・検体番号180198）について検査を実施したところ、インフルエンザA2009型が検出されました。

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたインフルエンザウイルスについて、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（10月9日作成）によると、本年8月にはA2009型が5件、AH3型が3件報告されています。

6 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体2件（検体採取8月上旬、9月上旬）について検査を実施したところ、1件（検体番号180203）からA群溶血性レンサ球菌が分離され、残り1件からは分離されませんでした。さらに、分離された菌についてT型別を実施しましたが、型別不能でした。

7 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の検体1件（検体採取8月中旬）について検査を実施しましたが、RSウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 10 月検出分;検体採取 平成 30 年 9、10 月)

平成 30 年 11 月 13 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 8 件（検体 9、10 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、サポウイルス 2 件のみでした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180218	10 月上旬	—	—	—	—	—	—
180219	10 月上旬	—	検出				
180220	9 月上旬	—	検出				
180221	9 月上旬	—	—	—	—	—	—
180222	9 月中旬	—	—	—	—	—	—
180223	9 月上旬	—	—	—	—	—	—
180224	9 月上旬	—	—	—	—	—	—
180228	9 月下旬						
検出計		0 件	2 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

2 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 2 件（検体採取 9 月上旬、中旬・検体番号 180215、180216）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルス 54 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11 月 6 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年以降最も多い報告数となっています。（図 1）

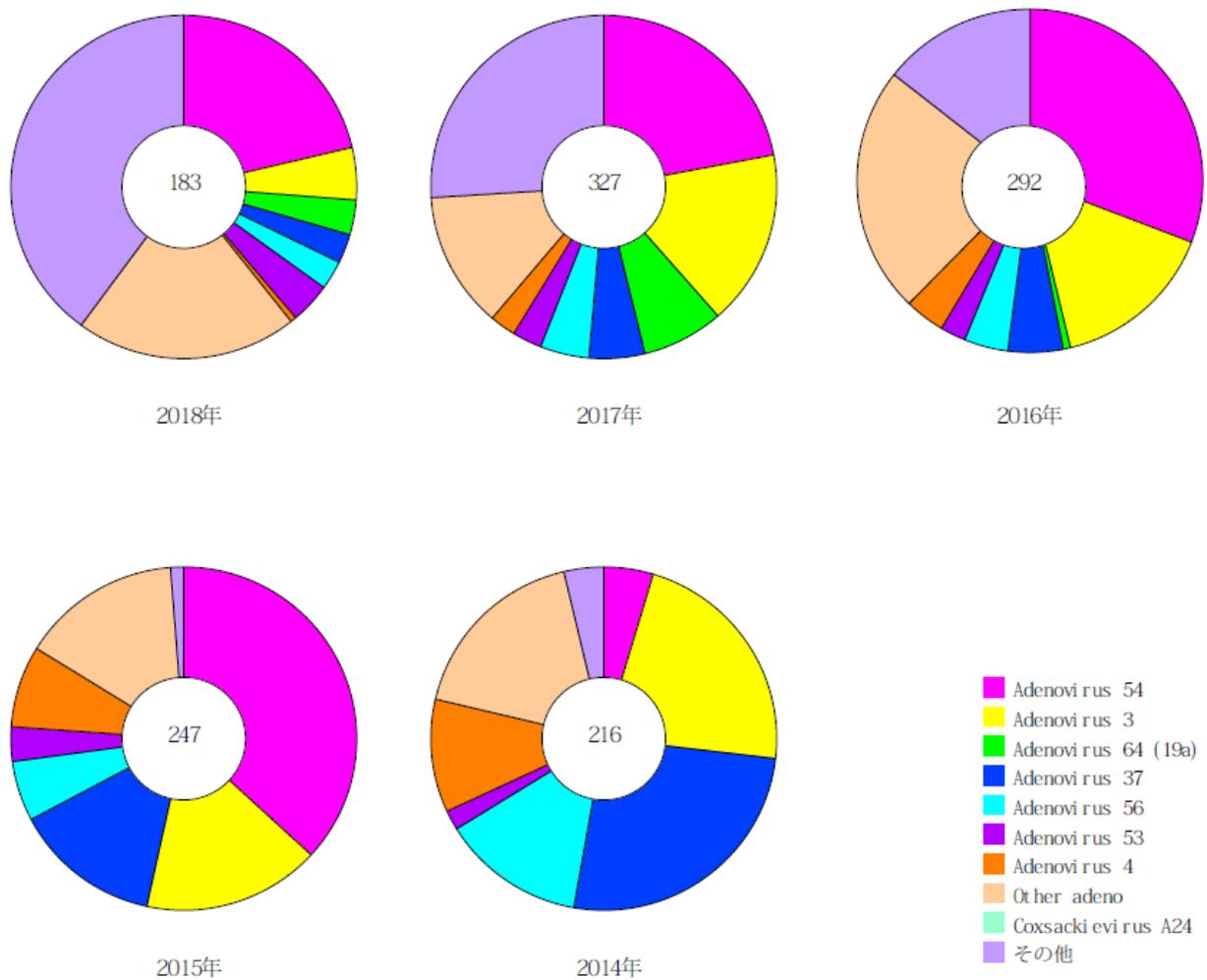


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 11 月 6 日までに報告された数）

3 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体2件（検体採取9月中旬、下旬）について検査を実施したところ、1件（検体番号180230）からアデノウイルス2型が検出され、残り1件（検体番号180225）からはアデノウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11月6日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス2型は2017年以降第1位の報告数となっています。

（図2）

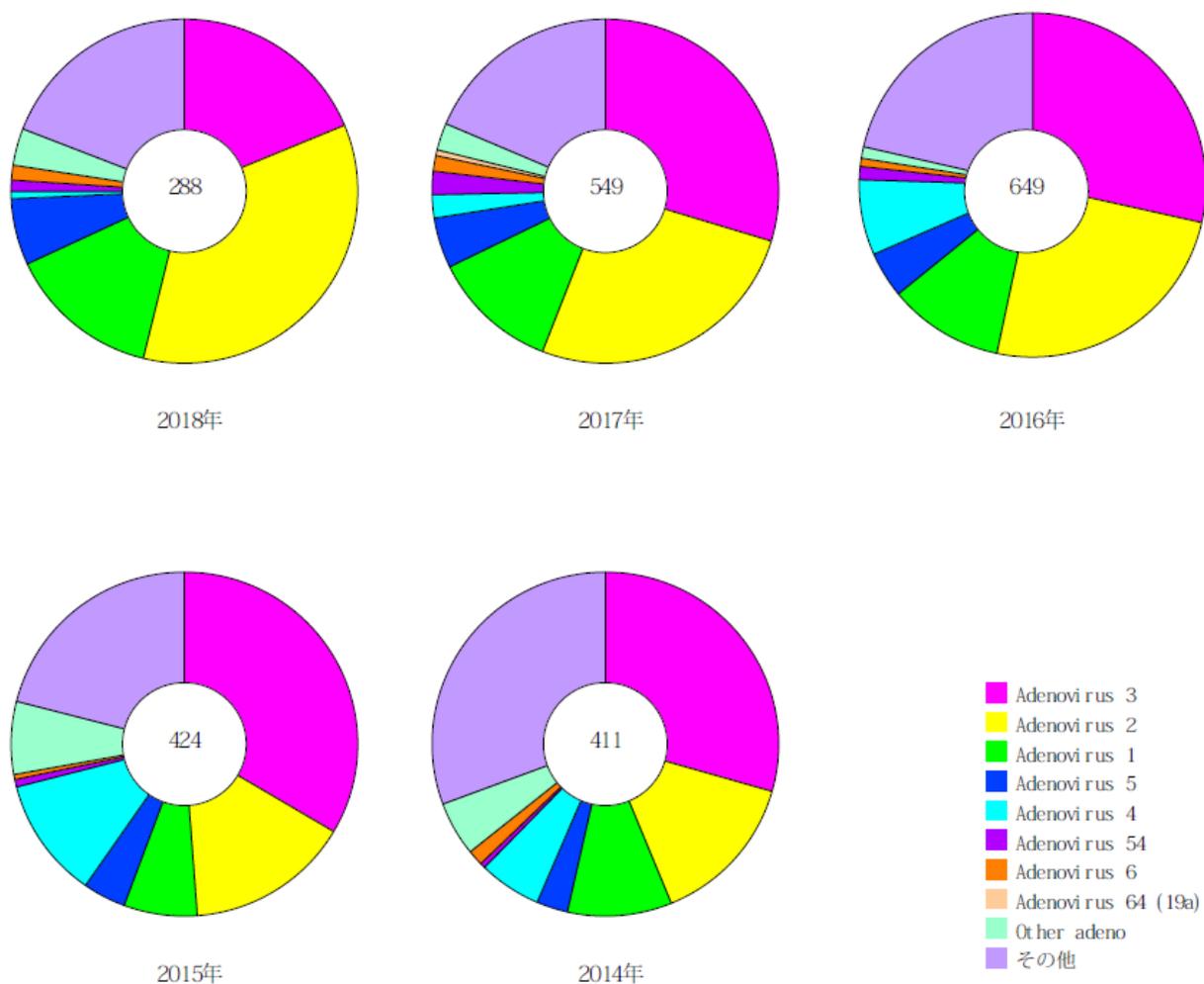


図2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年11月6日までに報告された数）

4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体 1 件（検体採取 9 月中旬・検体番号 180229）について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス及びムンプスウイルスの検査を実施しました。その結果、エコーウイルス 11 型とヒトサイトメガロウイルス（ヘルペスウイルス 5）が検出されました。（その他検出されず）

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11 月 7 日作成）によると、今年、全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、エコーウイルス 11 型は最も多く報告されていますが、ヒトサイトメガロウイルスはあまり報告されていません。（表 2）

表 2 無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2017～2018 年）

（本年は 11 月 7 日までに報告された数）

2018			2017		
1 Echovirus 11	28	10.9%	1 Echovirus 6	55	10.9%
2 Coxsackievirus B4	18	7.0%	2 Coxsackievirus B2	38	7.5%
3 Echovirus 18	12	4.7%	3 Enterovirus 71	30	5.9%
4 Enterovirus 71	9	3.5%	4 Echovirus 9	20	4.0%
5 Coxsackievirus A9	7	2.7%	5 Coxsackievirus B4	18	3.6%
6 Coxsackievirus B2	6	2.3%	6 Echovirus 3	17	3.4%
7 Coxsackievirus B5	6	2.3%	7 Coxsackievirus A6	11	2.2%
8 Echovirus 6	5	1.9%	8 Coxsackievirus A9	9	1.8%
9 Echovirus 7	5	1.9%	9 Echovirus 7	8	1.6%
10 Other enterovirus	25	9.7%	10 Other enterovirus	28	5.5%
11 Mumps virus	12	4.7%	11 Mumps virus	45	8.9%
12 Other virus	124	48.2%	12 Other virus	227	44.9%
Total	257	100.0%	Total	506	100.0%

5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 8 月中旬・検体番号 180226）について検査を実施したところ、RS ウイルス A 亜型が検出されました。

6 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体 1 件（検体採取 9 月中旬）について検査を実施しましたが、A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

7 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体 1 件（検体採取 9 月中旬）について検査を実施しましたが、エンテロウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 11 月検出分;検体採取 平成 30 年 10、11 月)

平成 30 年 12 月 11 日
鳥取県衛生環境研究所

1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 4 件（検体採取 10 月上旬、下旬、11 月上旬・検体番号 180231、180232、180245、180246）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルス 54 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12 月 6 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年以降最も多い報告数となっています。（図 1）

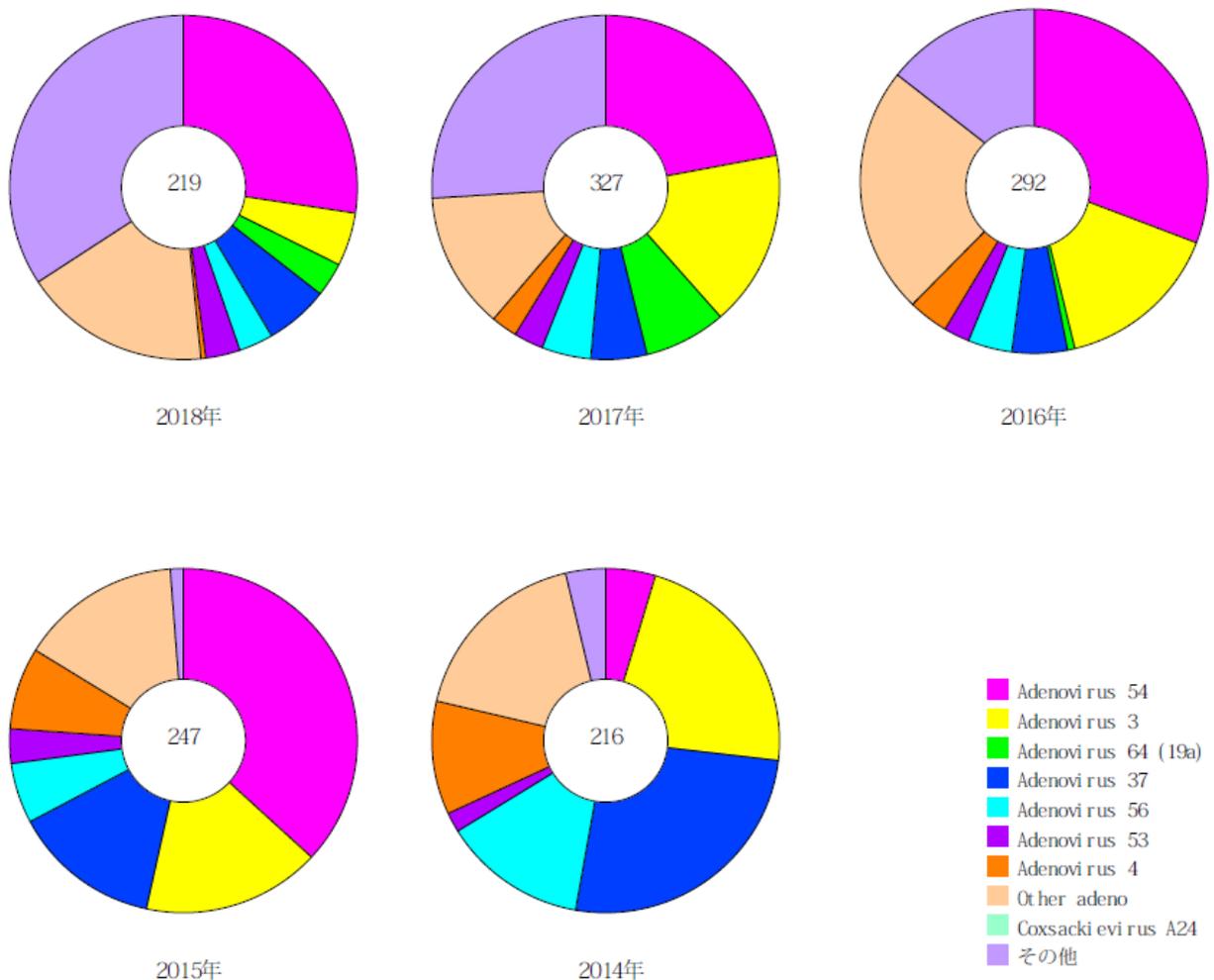


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

* 円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年 12 月 6 日までに報告された数）

2 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体2件（検体採取10月上旬、中旬）について検査を実施しました。その結果、1件（検体番号180242）からエンテロウイルスA71型が検出され、残り1件からは、エンテロウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月6日作成）によると、全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについて、エンテロウイルスA71型は2014年と2017年は第2位、2018年は最も多い報告数となっています。（図2）



図2 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年12月6日までに報告された数）

3 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体3件（検体採取10月上旬）について検査を実施しました。その結果、1件（検体番号180237）からコクサッキーウイルスA2型、1件（検体番号180241）からコクサッキーウイルスA4型が検出され、残り1件からは、エンテロウイルスは検出されませんでした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月6日作成）によると、全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについて、コクサッキーウイルスA4型は2014年、2016年、2018年隔年で最も多い報告数となっています。また、コクサッキーウイルスA2型については、2018年は過去4年に比べて、第2位と増えています。（図3）



図3 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2014年～2018年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年12月6日までに報告された数）

4 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 2 件（検体採取 10 月）について、検査を行いました。表 1 のとおり、検出されたウイルスはありませんでした。

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
180233	10 月中旬	—	—	—	—	—	—
180238	10 月下旬	—	—	—	—	—	—
検出計		0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

5 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 1 件（検体採取 10 月下旬・番号 180243）について検査を行いましたところ、A 群ロタウイルスが検出されました。

6 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体 1 件（検体採取 10 月上旬）について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルス及びムンプスウイルスの検査を実施しましたが、いずれも検出されませんでした。

7 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 10 月下旬）について検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。

8 水痘

臨床診断名が水痘の検体 1 件（検体採取 10 月中旬）について検査を実施しましたが、水痘帯状疱疹ウイルスは検出されませんでした。

9 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（疑）の検体 1 件（検体採取 10 月上旬）について検査を実施しましたが、A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 30 年 12 月検出分;検体採取 平成 30 年 11、12 月)

平成 31 年 1 月 10 日
鳥取県衛生環境研究所

1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 4 件（検体採取 11 月中旬、下旬・検体番号 180247～180250）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルス 54 型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12 月 28 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年以降最も多い報告数となっています。（図 1）

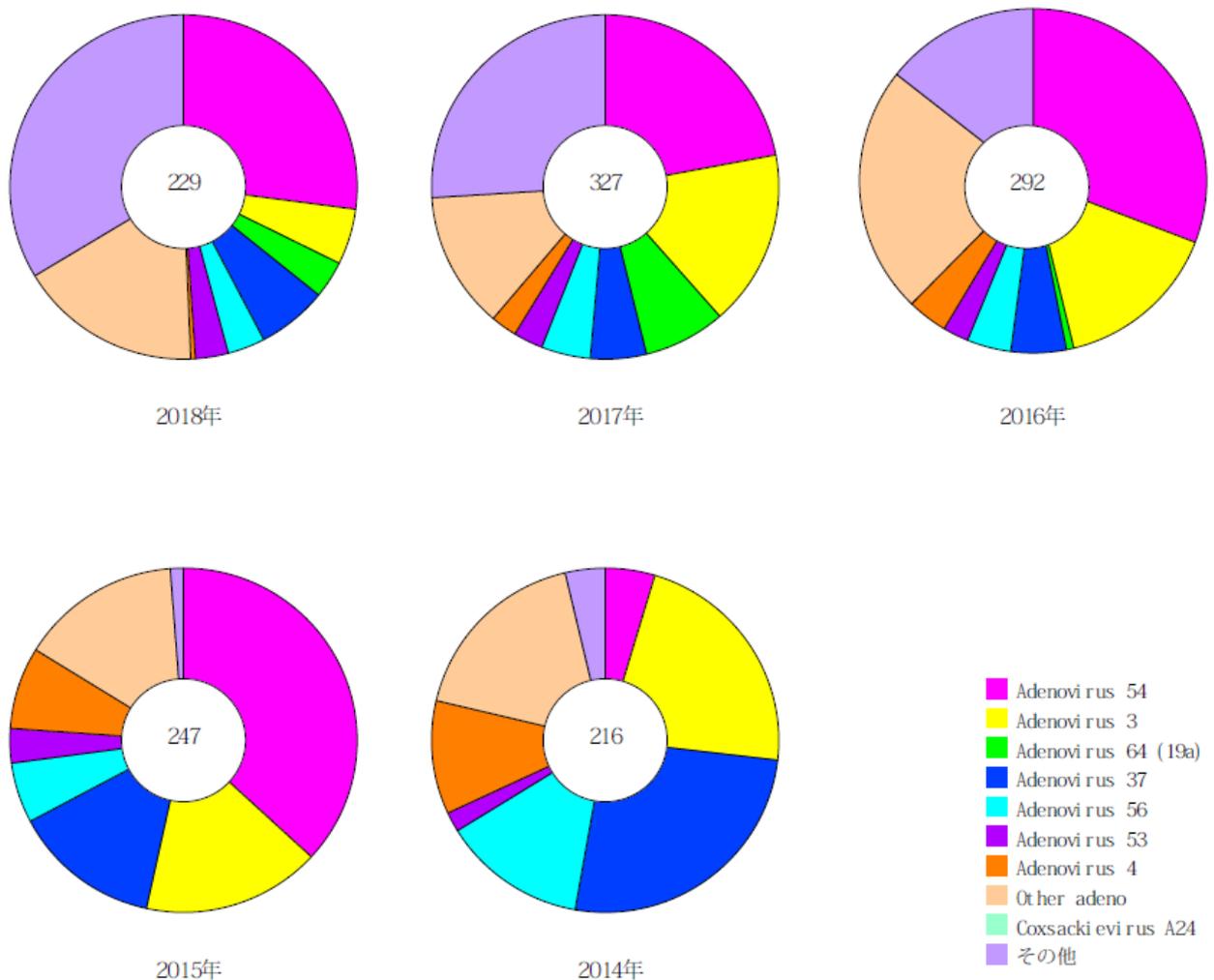


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2014 年～2018 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（昨年 12 月 28 日までに報告された数）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 6 件（検体採取 11 月）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、サポウイルス 1 件のみでした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
180252	11 月	—	—	—	—	—	—
180255	11 月中旬	—	—	—	—	—	—
180256	11 月中旬	—	—	—	—	—	—
180257	11 月中旬	—	陽性	—	—	—	—
180258	11 月中旬	—	—	—	—	—	—
180259	11 月上旬	—	—	—	—	—	—
検出計		0 件	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(—)：未検出

3 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 2 件（検体採取 11 月上旬、12 月上旬・番号 180261、180262）について検査を行いましたところ、どちらからも A 群ロタウイルスが検出されました。

4 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体 1 件（検体採取 11 月下旬）について検査を実施しましたが、インフルエンザウイルスは検出されませんでした。

5 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 2 件（検体採取 11 月中旬）について検査を実施しました。その結果、どちらからもエンテロウイルスは検出されませんでした。

6 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 11 月中旬）について検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。